



NPO えひめ盲ろう者友の会 会報
—— 2012・春号 ——

も く じ

1. ニューリーダー育成研修会に参加して
2. 『第17回中・四国盲ろう者大会』に参加して
3. 盲ろう者通訳ガイドヘルパー指導者研修会（後期）に参加して
4. 編集後記



1. ニュージーリーダー育成研修会に参加して

二宮朋子

12月10日（土）～11日（日）東京の新橋で行われた『ニューリーダー育成研修会』に参加しました。私は理事として参加させていただきましたが、仕事の時間の関係で、実際に参加できたのは土曜日の午後から日曜日の午前まででした。

今回のカリキュラムとしては、初日は「盲ろう者福祉の歴史」・「リーダーとしての自覚とモラル」が上げられ、二日目はグループディスカッションで各グループに別れ、リーダーとして心がける事について意見交換をし、午後からは「盲ろう者の未来」が挙げられました。

1日目は講演会で、午前中の福島さんの話を聞く事はできませんでしたが、午後からは大杉さんと高橋さんの話を聞く事はできました。それぞれリーダーとしての経験や、普段思っている事が聞けて良かったと思います。



その日の夜は、私はディズニーランド近くのお店でグッズやおみやげを買ったり、食事をしました。個人的に、またディズニーランドに行きたいと思っています。

2日目は、私はAグループだったので、その班の人たちとリーダーとして心がける事で何が必要か、と言う事で意見交換をしました。七つのキーワードが挙げられていて、どれも大事な事ではあったけど、良い人間関係を構築するためにリーダーとして周囲の状況を把握し、情報収集して正しく読



み取る力を付ける事と、自分の事、盲ろう者の事だけを考えるのではなく、通訳介助者の事についても思いを広く持ち、会全体が思いやりの気持ちを持って、心広く作り上げて行くのが必要になって来るのではないかと、言う事を話し合いました。

今回理事として研修会に参加して、あまり時間がなかったのも、他県の盲ろう者の方と話す事ができなかったのが残念に思います。

来年の全国大会や他の機会の時には、たくさんいろんな人との交流を持ちたいと思っています。

2. 『第 17 回中・四国盲ろう者大会』に参加して

柳井紀子

11 月 12 日（土）～13 日（日）岡山市で開かれた『第 17 回中・四国盲ろう者大会』に参加しました。

普段（頻度は少ないのですが）コミュニケーション支援が主な通訳介助活動で、移動介助の経験がありませんでしたが、今回は移動を含めた通訳介助をすることになっていたのも、やや緊張しての参加になりました。

1 日目に「開会式」「岡山盲ろう者友の会 10 周年創立記念行事」があり、私は触手話通訳に入りました。

通訳介助の人数が少ないということで、どの通訳介助者も頻繁に交代しながら行うという状態ではなかったのですが、皆それぞれに自分の役割をこなされていました。



私も十分ではないものの、出来る限りの触手話通訳に努めましたが、やはり触手話は難しいと改めて感

じさせられました。

手話も十分でない上に更なる技術が必要とされます。悩みながらの通訳となりました。

しかし、対象者からうなずきや何かの反応があった時はとても嬉しく、伝わった感覚を忘れないように、その後の通訳の中で生かしていかなければと思いました。

また、今回傍で見ていて、受ける側の大変さも頭に入れながら通訳をしなければならないと改めて思いました。

通訳は交代できても、対象者は交代して休むことができないので、疲労はかなりのものだと思います。

少しでも楽に通訳を受けてもらえる様に、方法についてもっと考えてする必要があると思いました。

今回の大会では触手話や手の平書きでしか通訳のお手伝いができなかったのですが、ブリストを打っている人達の大変さを目の当たりにしました。



今後そのお手伝いもできるような技術を身に付けていけたらと思いました。

最後に、行き帰りや大会期間中、事故や怪我がなく愛媛の参加者が無事帰って来られて本当に良かったです。

3. 盲ろう者通訳ガイドヘルパー指導者研修会（後期） に参加して

野々宮さやか

暑いくらいにポカポカ容器陽気の岡山、中四国大会を終え、新幹線で埼玉県の国立障害者リハビリテーションセンター学院

へ向かいました。

「後期研修は前期以上に厳しいのよ～。玉砕しておいで～」
などと言われていたので、ビクビク、ドキドキ。

前期では自信なくて少し引きぎみだったけれど、私は経験もまだ浅いから、たとえ上手く出来なくても当然だわ、と勇気を出して一歩踏み込んだ。

そんな気持ちで、自然体で望んだのが良かったのでしょうか。
おかげで内容の濃い、楽しい研修会となりました。

当たり前なことだけど、本当に盲ろう者一人一人違うということ
を改めて強く感じました。

通訳介助をする際、通訳の早さや正確さを追求するだけではなく、楽しく過ごす時間を作りながら、その時空を共有することが大切なんだなあ、と思いました。



そのためには、盲ろう者と一緒に過ごす時間を確保することが大切なのかなと思います。

私はまだまだ通訳介助法の指導をする立場にはありませんが、講師の方々が、この研修会で私たち受講生に示して下さいった通訳介助の精神を大切にして、さらに経験を重ねていこうと考えています。

盲ろう者と二人だけの閉じた世界にならないように。

沈黙の時間を作らないように。

この研修会での一番の収穫はたくさんの方たちに出会えたこと！

本当に参加して良かったです。

どうもありがとうございました。



4. 編集後記

昨年は盲ろう当事者の代表として、二宮さんがニューリーダー育成研修会に、野々宮さんが通訳・ガイドヘルパー指導者研修会に参加してきてくださいました。

レポートから分かるように、それぞれ貴重な経験をされて来られたようです。

今回の経験を元に、今後ますますご活躍されることでしょう。

さて、ご存知かとは思いますが、今年は我が愛媛で全国盲ろう者大会が開催されます。

遠方への外出が難しい方も、他地域の盲ろうの方と交流するチャンスですよ。

本誌でも大会の様子を取り上げていきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

2012年4月 1日

もうろうの木 編集委員長 林 弘之

特定非営利活動法人 **えひめ盲ろう者友の会**

〒791-8016 愛媛県松山市久万ノ台 594-5

Tel 090-7780-8404 Fax 089-926-0282

E-mail tomonikai@db-tarzan.no-ip.info

URL <http://www.db-tarzan.no-ip.info/tomonikai/>

編集責任者 林 弘之 発行責任者 高橋 信行

